

第3章 専攻科の教育活動

3. 1 専攻科の構成

【改善内容】

専攻科の構成や定員は、しばらく大きく変更する必要はないが、社会の要求や入学者の動向の変化に応じて、見直しを図っていく必要がある。

【改善状況】

「国立高専の整備について～新たな飛躍をめざして～」11頁には、専攻科の入学定員の増加を図り、準学士課程（本科）入学定員の20～30%程度とする、と述べられている。このことから、本校においても、専攻科の構成や定員についての検討を始めている。

【追加裏付資料】

3.1-1) 「国立高専の整備について～新たな飛躍を目指して～」

3. 2 専攻科の教育目標

【改善内容】

A～Fの学習・教育の目標は、しばらく大きく変える必要はないが、A-1～F-3 の小項目は社会の要求の変化に応じて見直しを行い、定期的に改善する必要がある。

【改善状況】

専攻科の学習・教育目標は、「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標と同じものとしている。1.2 節に詳述されている通り、平成 18 年度に改正した。JABEE の審査の結果を踏まえて、さらに改善を検討する必要がある。

3. 3 教育課程の編成

(1) 本科教育課程との連携

【改善内容】

全学科に共通する科目については、本科課程までに教授する内容と水準の統一化を図り、整合が取れるようにその内容を踏まえて専攻科の授業内容を決定する必要がある。教務委員会と専攻科委員会が中心となって、7年間一貫教育として、本科課程と専攻科課程でそれぞれ習得させる内容を見直す必要がある。

【改善状況】

本科の教育課程は、平成 19 年度の完了に向けて現在学年進行中であり、それまでは大幅な改訂が困難であることから、専攻科の教育課程のみの変更で改善を図ってきた。専攻科の授業を受講するに当たり、出身学科による基礎知識の差を埋めるために、平成 19 年度の教育課程から、各学科の基礎科目を教授する通論科目およびプログラミング基礎を1年前期に開講し、専門共通科目の必修選択科目として位置づけることにした。これらは、当該科目の内容を本科で教授されていない学科の出身学生が対象であることから、既に履修している学生への単位認定は行わない。

平成 19 年度教育課程表を表 3.1 に示す。

表 3. 1 平成 19 年度専攻科教育課程表

生産システム工学専攻(平成19年度入学生)

授業科目	単位数	学年配当				必要修得 単位数	
		1年		2年			
		前期	後期	前期	後期		
必修	ビジネス英語Ⅰ	2	2			4単位	
	ビジネス英語Ⅱ	2	2	2	2		
	小計	4	4	0	2		
	ビジネス英語実習	2	2				
	比較文学論	2	2				
	経済地理学	2	2	2	2		
	科学技術社会論	2	2	2	2		
	国際政治論	2	2	2	2		
	小計	10	10	4	4		
	一般科目履修単位数合計	14	14	4	6	0	
選択	一般科目履修単位数合計	6	6	6	6	6 単位以上	
必修選択	技術者倫理	2	2			2単位	
	小計	2	2	0	0		
	機械工学論述	2	2				
	電気工学論述	2	2				
	土木工学論述	2	2				
	物質工学論述	2	2				
	プログラミング基礎	2	2				
	小計	10	10	4	4		
	一般科目履修単位数合計	14	14	4	6	0	
専門共通科目	必修	技術者倫理	2	2			2単位
	小計	2	2	0	0		
	機械工学論述	2	2				
	電気電子工学論述	2	2				
	情報工学論述	2	2				
	物質工学論述	2	2				
	土木工学論述	2	2				
	プログラミング基礎	2	2				
	小計	10	10	4	4		
	専門共通科目履修単位数合計	6	6	6	6	6 単位以上	
専門科目	必修	応用数学Ⅰ	2	2			2単位
	必修	応用数学Ⅱ	2	2			
	必修	システム工学論述	2	2			
	必修	電気電子工学論述	2	2			
	必修	情報工学論述	2	2			
	必修	物質工学論述	2	2			
	必修	土木工学論述	2	2			
	必修	プログラミング基礎	2	2			
	必修	小計	10	10	4	4	
	専門科目履修単位数合計	14	14	4	6	0	
専門科目	必修	応用数学Ⅲ	2	2			2単位
	必修	応用数学Ⅳ	2	2			
	必修	システム工学特別研究	2	2			
	必修	電気電子工学科の出身者	2	2			
	必修	情報工学科の出身者	2	2			
	必修	物質工学科の出身者	2	2			
	必修	土木工学科の出身者	2	2			
	必修	プログラミング基礎	2	2			
	必修	小計	10	10	4	4	
	専門科目履修単位数合計	14	14	4	6	0	
専門科目	必修	生産システム工学特別研究	2	2			20単位以上
	必修	総合創造実験	2	2			
	必修	生産システム工学専修	2	2	1	1	
	必修	生産システム工学特別研究Ⅰ	2	2	0		
	必修	生産システム工学特別研究Ⅱ	2	2	0		
	必修	生産システム工学特別研究Ⅲ	2	2	0		
	必修	インターナショナル	2	2			
	必修	小計	24	24	6	5	
	専門科目履修単位数合計	44	44	10	6	0	
	専門科目履修単位数合計	20	20	6	6	0	
専門科目	必修	生産システム工学特別研究	2	2			24単位
	必修	総合創造実験	2	2			
	必修	生産システム工学専修	2	2	1	1	
	必修	生産システム工学特別研究Ⅰ	2	2	0		
	必修	生産システム工学特別研究Ⅱ	2	2	0		
	必修	生産システム工学特別研究Ⅲ	2	2	0		
	必修	インターナショナル	2	2			
	必修	小計	24	24	6	5	
	専門科目履修単位数合計	44	44	10	6	0	
	専門科目履修単位数合計	20	20	6	6	0	
専門科目	必修	環境システム工学特別実験	2	2			24単位
	必修	総合創造実験	2	2			
	必修	環境システム工学専修	2	2	1	1	
	必修	環境システム工学特別研究Ⅰ	2	2	0		
	必修	環境システム工学特別研究Ⅱ	2	2	0		
	必修	環境システム工学特別研究Ⅲ	2	2	0		
	必修	インターナショナル	2	2			
	必修	小計	24	24	6	5	
	専門科目履修単位数合計	45	45	10	6	0	
	専門科目履修単位数合計	20	20	6	6	0	
専門科目	必修	循環系微生物	2	2			12単位以上
	必修	微生物加工工学	2	2			
	必修	機械工学	2	2			
	必修	電気工学	2	2			
	必修	情報工学	2	2			
	必修	資源生物学	2	2			
	必修	生物工学	2	2			
	必修	機械工学	2	2			
	必修	電気工学	2	2			
	必修	情報工学	2	2			
専門科目	必修	環境生物学	2	2			36単位以上
	必修	微生物加工工学	2	2			
	必修	機械工学	2	2			
	必修	電気工学	2	2			
	必修	情報工学	2	2			
	必修	資源生物学	2	2			
	必修	生物工学	2	2			
	必修	機械工学	2	2			
	必修	電気工学	2	2			
	必修	情報工学	2	2			
専門科目	必修	環境生物学	2	2			62単位以上
	必修	微生物加工工学	2	2			
	必修	機械工学	2	2			
	必修	電気工学	2	2			
	必修	情報工学	2	2			
	必修	資源生物学	2	2			
	必修	生物工学	2	2			
	必修	機械工学	2	2			
	必修	電気工学	2	2			
	必修	情報工学	2	2			

*1 機械工学科出身者以外は必修、機械工学科出身者は単位認定しない。
 *2 環境都市、物質工学科出身者の必修、機械、電気電子、情報工学科出身者は単位認定しない。
 *3 環境、環境都市、物質工学科出身者は必修、電気電子、情報工学科出身者は単位認定しない。
 *4 物質工学科出身者は必修、是環境都市工学科出身者は単位認定しない。
 *5 環境都市工学科出身者は必修、機械、電気電子、情報工学科出身者は単位認定しない。
 *6 環境都市、物質工学科出身者は必修、機械、電気電子、情報工学科出身者は単位認定しない。
 *7 機械、電気電子、情報工学科出身者は必修、物質、環境都市工学科出身者10単位は単位認定しない。
 (注)出身学科が上記※1~7のいずれにも該当しない場合は、専攻科委員会で決定する。

【追加裏付資料】

3.3(1)-1) 平成19年度専攻科授業計画書の記載例

(2) 授業科目の配置および内容の体系性

【改善内容】

「情報工学」と「画像処理工学」はいずれも1年前期の開設となっているが、「画像処理工学」は「情報工学」の一部を基礎とすることから、「情報工学」の終了後に受講できるようにすべきである。

また、平成18年度の教育課程では、体系性を確保し、さらに英語の力を増強し、生物、物理、化学などの自然科学系の科目を充実することを目指しており、そのための変更部分について専攻科委員会で検討している。

【改善状況】

平成18年度の教育課程では、体系性を確保するために、「情報工学」を1年前期、「画像処理工学」を1年後期の開講とした。さらに、平成19年度の教育課程では、「情報工学」の内容を「情報工学通論」として必修選択科目とし、「画像処理工学」を生産システム工学専攻の専門展開科目とする。

また、英語力をさらに高める目的で「ビジネス英語演習」を選択科目として新設した。さらに、生物、化学などの自然科学系の科目を充実するために、「生物工学基礎」を専門共通科目に新設し、環境システム工学専攻の展開科目であった「環境微生物工学」と「資源地球化学」を専門共通科目として、生産システム工学専攻の学生にも受講できるようにした。平成18年度教育課程表を表3.2に示す。

【追加裏付資料】

3.3(2)-1) 平成18年度専攻科授業計画書

(3) インターンシップの導入

【改善内容】

インターンシップについては、平成18年度の教育課程の編成において、独立した科目にすることや実施時間と単位数とを整合させるなどの改善が必要であり、専攻科委員会で検討している。

また、インターンシップに対しては、特別研究や共同研究など企業との連携を深めるための架け橋となる期待もあることから、その働き掛けとともに、学生自らが実習計画を企画・立案し、受入先企業実習担当者と緊密に事前打合せをするための指導体制等を整備する必要がある。

【改善状況】

平成18年度の教育課程では、表3.2に示すようにインターンシップを「総合演習」から独立させ、科目名も「インターンシップ」とした。また、実施期間が最低でも3週間であることを考慮して、単位数を4単位とした。

平成17年度からは、テーマや実施内容等について、受入先企業との間で事前打ち合わせを行っている。

表3. 2 平成18年度専攻科教育課程表

(4) PBL (Project Based Learning) の導入

【改善内容】

平成17年度の生産システム工学特別実験では、課題実験の時間を2回(12時間)増加することにより時間不足の緩和を図っている。また、指導体制については、テーマとも関係するが、特別実験担当教員の枠を超えた、チームティーチングの導入について検討する必要がある。

本科課程の新しい教育課程（平成 17 年度 3 学年まで進行）では、すべての学科にそれぞれの分野での創造性を育成する授業（創成科目）が開設されていることから、これを履修した学生が専攻科に入学する平成 20 年度に向けて、設定水準を上げていく必要がある。

評価については、実際の設計・製作に携わっている企業の方にもお願いをして、発表会およびコンテストの評価メンバーに入って頂くことを検討している。

【改善状况】

平成19年度から、PBL実験の協力を目的とした「マイスター制度」を発足し、確かな技術と知識を持った企業退職者（現役技術者を含む）に「マイスター」として登録いただき、PBL実

験に対する審査のみならず、企画書の立案や製作に関しても指導をいただくことにした。そのため、専攻毎に行う実施体制は従来通りであるが、2ヵ月程度（6時間×9回）で行っていた期間を、半年（1年後期15回）に延長して実施することにした。

さらに、2年前期には「複合創造実験」を新設し、ここでは、両専攻の学生が混在して結成するチームの一員としてマイスターにも入っていただき、地域から吸い上げたニーズをプロジェクトテーマに設定し、その課題解決を通じて製作技術の他にプロジェクトマネジメントや商品開発のための知識も学ばせる予定である。

これら1年後期のPBL実験と2年前期の複合創造実験を併せて、「ものづくり伝承プログラム」と位置づける。

【追加裏付資料】

3.3(4)-1) 函館工業高等専門学校特専教員規程

3.3(4)-2) 「ものづくり伝承プログラム」実施に関する（平成18年度第12回教員会議資料）

3. 4 授業計画書

【改善内容】

平成18年度のシラバスでは、各授業項目が学習・教育目標のどの項目に該当するのかを明示することも検討している。

【改善状況】

平成18年度のシラバスでは、各授業項目が学習・教育目標のどの項目に該当するのかを明示し、当該科目の位置づけを明確にした。

さらに、平成19年度のシラバスでは、科目ごとに自学自習の時間についても明記し、1単位は45時間の学習内容をもって構成することを明確にする。

【追加裏付資料】

3.4-1) 平成19年度専攻科授業計画書の記載例

3.4-2) 平成18年度専攻科授業計画書

3. 5 成績評価・単位認定

（1）成績評価基準、進級・修了認定基準

【改善内容】

専攻科委員会において、「複合型システム工学」教育プログラムの履修規程（案）を策定し、「函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」に進級要件、単位認定に必要な出席時数、修了認定要件を含め改正案とした。また、専攻科の修了に「複合型システム工学」教育プログラムの履修が必要であることを学則に記載することとした。学則等のこれらの規程については速やかに制定する必要があり、現在運営委員会で審議中である。

【改善状況】

専攻科の修了に、「複合型システム工学」教育プログラムの履修が必要であることを学則の第

37条および38条に定めた。「函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」を改正し、進級要件、単位認定に必要な出席時数、さらには修了認定要件に教育プログラムの履修をそれぞれ含めた。また、「複合型システム工学教育プログラムの履修規程」、「学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ」、「複合型システム工学教育プログラムの単位認定のための再評価に関する申合せ」を整備した。これらの規程によって、成績評価基準、進級・修了認定基準が明文化された。

【追加裏付資料】

- 3.5(1)-1) 学則
- 3.5(1)-2) 函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
- 3.5(1)-3) 「複合型システム工学」教育プログラムの履修規程、学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ
- 3.5(1)-4) 学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ
- 3.5(1)-5) 複合型システム工学教育プログラムの単位認定のための再評価に関する申合せ

(2) 成績評価、進級・修了認定の実施状況について

【改善内容】

平成 16 年度にシラバスに記載されている評価方法とは異なる方法で成績評価をした教員には、教員自己点検表により平成 17 年度はシラバス通りに評価するよう注意を喚起している。
不合格者に対する再試験までの指導方法や教育改善について検討する必要がある。

【改善状況】

平成 17 年度の点検では、シラバスに記載した評価方法が曖昧で、評価方法を変更したのは 1 科目のみで、他の科目についてはシラバス通りに評価したことが確認され、顕著な改善の効果があった。

平成 17 年度修了生（1 期生）については、専攻科修了判定資料に基づいて修了の判定を行った。生産システム工学専攻の例を表 3.3 に示す。その結果、表 3.4 に示す結果となった。修了認定されなかった学生の全員が TOEIC 400 点を未取得であった。就職が内定していた学生は、修了認定されなかった者も内定の取り消しではなく、休学して就職している。また、3 月まで就職内定を得られなかった未修了生は休学して就職活動を行うとともに、修了要件を満たす努力をしている。平成 19 年度 1 月現在で、TOEIC 400 点を取得して修了認定可能になった学生は生産システム工学専攻の 1 名、環境システム工学専攻 2 名である。

表3. 3 平成17年度専攻科修了判定資料
(生産システム工学専攻の例)

平成17年度 専攻科修了判定資料

生産システム工学専攻		一般科目		専門共通科目		専門選択科目		修得単位数		学習保証時間		学習・教育目標の達成	
学籍番号	氏名	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	T	E	C	学修会での発表
4701	[REDACTED]	合	4	6	2	22	24	14	141	430	367	2392	3189
4702	[REDACTED]	合	4	6	2	18	24	14	134	347	598	1987	2930
4703	[REDACTED]	合	4	2	2	22	24	12	135	375	416	2059	2850
4704	[REDACTED]	合	4	2	2	18	24	14	132	32	0	0	0
4705	[REDACTED]	否	4	4	2	18	10	14	121	428	317	1775	2520
4706	[REDACTED]	合	4	4	2	18	24	12	132	398	300	2127	2825
4707	[REDACTED]	否	4	2	2	20	24	12	133	407	339	2045	2791
4708	[REDACTED]	合	4	2	2	18	24	14	132	369	358	2049	2776
4709	[REDACTED]	合	4	2	2	18	24	12	131	408	379	2191	2978
4710	[REDACTED]	合	4	2	2	22	24	14	137	394	442	2689	3525
4711	[REDACTED]	否	4	4	2	20	24	14	136	441	329	2807	3577
4712	[REDACTED]	合	4	2	2	20	24	16	137	389	484	2384	3237
4713	[REDACTED]	合	4	2	2	20	24	12	133	364	418	1799	2581

学士取得
標準

備考
記入欄

表3. 4 平成17年度修了生

専攻 学年	在学者数 (平成18年3月)	修了認定者数	TOEIC 400点 未取得	学士未取得
生産システム 工学専攻2年	12	9	3	1
環境システム 工学専攻2年	11	4	7	0

3. 6 JABEEへの対応

(1) 学習・教育目標

【改善内容】

記載なし

【改善状況】

1. 2に詳述されている通り、平成18年度に改正した。JABEEの審査の結果を踏まえて、さらに改善する必要がある。

(2) 規程の整備

【改善内容】

大学との単位互換により修得した単位を「複合型システム工学」教育プログラムの単位として認める可能性については、「函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」に定めたので、今後手順などを定める申し合わせを策定する。

【改善状況】

3. 5 (1)でも述べたように、「函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」を改正し、進級要件、単位認定に必要な出席時数を含め、さらに修了認定要件に教育プログラムの履修を含めた。「複合型システム工学教育プログラムの履修規程」、「学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ」、「複合型システム工学教育プログラムの単位認定のための再評価に関する申合せ」を整備した。

大学との単位互換により修得した単位を専攻科修了要件の単位および「複合型システム工学」教育プログラムの単位として認めることを、それぞれ、「函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」第8条、「複合型システム工学教育プログラムの履修規程」第10条に規定した。

【追加裏付資料】

3.6(2)-1 学則

3.6(2)-2 函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

- 3.6(2)-3) 「複合型システム工学」教育プログラムの履修規程、学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ
- 3.6(2)-4) 学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ
- 3.6(2)-5) 複合型システム工学教育プログラムの単位認定のための再評価に関する申合せ

3. 7 指導体制

(1) 指導体制

【改善内容】

本校専攻科は、平成17年度末に第1期修了生を出す予定である。現時点で改善可能な点については随時実施してきているが、実際には専攻科課程の1サイクルが終了した段階で、それまでの経験を生かし、教育課程、入試方法、広報活動などについて検討し、改善を加える必要がある。

専攻科生に対する各種の指導を的確に行うためにも、専攻長および副専攻長の役割をより明確にする必要がある。

【改善状況】

専攻科生に対する指導を的確に行うために、各専攻の各学年に担任を置いた。平成16年度は1年生のみが在籍しており、専攻長が担任の役割を果たし、平成17年度は専攻長が2年の担任、副専攻長が1年の担任を行ったが、平成18年度からは、専攻科委員から担任を選出することにした。

1年担任は、主に履修計画の指導、インターンシップ受入先企業との交渉やインターンシップに関して学生に対する事前・事後の指導、各期における達成度の確認、進路に関する指導、その他の指導を行う。2年担任は、主に履修計画の指導、各期における達成度の確認、学士取得に関する指導、進路に関する指導、その他の指導を行う。また就職に関しては企業に対する窓口となる。

(2) オフィスアワー

【改善内容】

学生に対して、在室可能な時間帯をアナウンスするためにオフィスアワーの制定は必要であり、平成17年度後期からの実施が教務委員会で検討され、8月の運営委員会で決定された。これを受け、専攻科の学生に対しても、同時に同じ体制でオフィスアワーを実施する。

【改善状況】

平成17年度後期から実施し、平成17年度は水曜日の16時25分～17時10分、平成18年度は水曜日の16時55分～17時45分を全学一斉にオフィスアワーとしている。しかし、オフィスアワーに限らず、教員室を訪問した学生には可能な限り対応をしている。

(3) 授業改善

【改善内容】

専攻科生の授業評価や学校への要望の反映については、現在のところ担当教員個人のレベル、

あるいは専攻科委員会のレベルに留まっており、これを授業改善に結びつけるためには、学校全体としてより組織的な取り組みが必要である。そのためにも、教員の教育活動を客観的に評価するとともに、それを効果的に改善に結びつける体制を早急に構築する必要がある。

【改善状況】

平成 16 年度の授業から、専攻科における授業評価アンケートを実施し、集計結果とアンケート結果に対する科目担当教員のコメントを小冊子と Web により公開している。平成 17 年度は集計結果に科目名も含めて公開した。平成 17 年度の授業の評価結果は、平成 16 年度よりも評価が高く、教員の努力が伺われる。

今後も継続して改善が行われるよう、点検を続けることが必要である。

【追加裏付資料】

- 3.7(3)-1) 平成16年度専攻科における授業評価アンケート 「集計結果と自己評価」
- 3.7(3)-2) 平成17年度専攻科における授業評価アンケート 「集計結果と自己評価」

3. 8 専攻科の研究活動

(1) 特別研究

【改善内容】

特別研究の発表会を公開とし、学外にも専攻科をアピールする形態を専攻科委員会で検討する。また、学会発表が可能な学術水準を保ちながら、現実の問題を解決するための技術や手法を習得できる技術開発型の研究テーマを増加させるために、企業と連携し、研究テーマを発掘するシステムについても検討する必要がある。

【改善状況】

特別研究の発表会は公開しており、市内および近郊の企業に案内状とプログラムを送付している。また、特別研究論文集を同企業に送付している。

企業との共同研究のテーマを特別研究で実施している例は 5 件程度で、まだ少ない。「ものづくり伝承プログラム」のプロジェクトによる企業との連携が、インターンシップと併せて、技術開発型の研究テーマを発掘するきっかけとなることが期待される。

(2) 特別研究の指導体制

【改善内容】

主担当教員が不在のときにも指導を受けられるように、複数教員による指導体制の整備について検討が必要である。

【改善状況】

平成 18 年度入学生から、主担当教員が不在のときにも指導を受けられるように、複数教員による指導体制とした。表 3.5 に平成 18 年度入学生の特別研究指導教員の一覧表を示す。

表3. 5 平成18年度入学生の特別研究指導教員の一覧

生産システム工学

学籍番号	学生氏名	研究室	
		主	副
06701	S-01	藤原	河合
06702	S-02	川上	浜
06703	S-03	柳谷	山田（一）
06704	S-04	近藤	山田（誠）
06705	S-05	柳谷	山田（一）
06706	S-06	三島	木村
06707	S-07	本村	中川
06708	S-08	先名	後藤
06709	S-09	石井	森田
06710	S-10	森田	石井
06711	S-11	先名	後藤
06712	S-12	森谷	川上
06713	S-13	浜	中村
06714	S-14	森谷	川上
06715	S-15	中川	本村
06716	S-16	川上	浜
06717	S-17	近藤	山田（誠）
06718	S-18	本村	中川
06719	S-19	藤原	河合
06720	S-20	中川	本村

環境システム工学

学籍番号	学生氏名	研究室	
		主	副
06801	K-01	大久保	宮武
06802	K-02	宮武	大久保
06803	K-03	小玉	川口
06804	K-04	小玉	川口
06805	K-05	宮武	大久保
06806	K-06	平沢	澤村
06807	K-07	平沢	澤村
06808	K-08	小原	上野
06809	K-09	大久保	宮武
06810	K-10	川口	小玉
06811	K-11	小原	上野
06812	K-12	鹿野	水上・大森

【裏付追加資料】

- 3.8(2)-1 「国立高専の整備について～新たな飛躍を目指して～」
- 3.8(2)-2 平成19年度専攻科授業計画書の記載例
- 3.8(2)-3 平成18年度専攻科授業計画書
- 3.8(2)-4 学則
- 3.8(2)-5 函館工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
- 3.8(2)-6 「複合型システム工学」教育プログラムの履修規程、学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ
- 3.8(2)-7 学習・教育目標の達成度の評価方法・基準に関する申合せ
- 3.8(2)-8 複合型システム工学教育プログラムの単位認定のための再評価に関する申合せ
- 3.8(2)-9 平成16年度専攻科における授業評価アンケート「集計結果と自己評価」
- 3.8(2)-10 平成17年度専攻科における授業評価アンケート「集計結果と自己評価」

